令和６年度　ケアラー支援専門員設置事業
【横須賀地域研修会】意見交換の概要　　※無断転用禁止
※グループごとに記録いただいた意見交換の内容を掲載しています

基調講演・当事者の話を聞いて感じたこと・考えたこと

・当事者として、当時、周囲には言えなかった。辛い体験が多かった。本当にきつかった。今は様々な方法でピアとしてつながれる。色々なことを聞いてあげることが大事。
・三橋さんの話を聞いて、地域のつながりの大切さを感じた。築くことができるなら、地域の輪を作れると良い。やまゆさんの話を聞いて、ヤングケアラーの大変さを痛感した。
・自分の支援する方たちにもヤングケアラ―だった人たちがいる。行政以外にもつながるところが見つけられると良い。
・心理職として、支援する子から「こうなりたい」と思ってもらえるのは嬉しいこと。
・周りへ周知させること。地域の協力。「困りごとがあったら包括へ」が浸透している。スポットをあてられていない方へのアウトリーチ、地域力が大事。つなげていきたい。たらい回し、縦割りが課題と感じている。
・ケアラー支援の概念を学べた。
・親族の介護経験。支援者に囲まれ楽しく介護できた。ヤングケアラ―という存在への気づきを得られた。その気づきが増えたら。支援機関へのつなぎができたら。
・当事者の話を初めて聞き感銘を受けた。地域包括ケアシステムの業務で研修について伝え、広めていきたい。
・わかりやすい話だった。家族は抱えがちであると改めて感じた。
・やまゆさんの話を受け、１人で抱えていた、もっと早く関わる所があれば、と感じた。
・日本のケアラーは７割が家族。
・姑を10年介護していたが、施設に入れてしまって家で看るべきなのか悩んだが「これでよかった」と思うまで3年かかった。自分が今までやった介護の答え合わせ。日本はやはり女性がケアラーになることが多い現実を知った。
・認知症の方への対応について、地域を巻き込んだケアの重要性を感じた。
・共生。孤立させない。仲間とつなぐこと。
・家族の状況と共通するところがあり、聞いていて涙が出た。
・家族まるごと支援について。少ない支援者と中で地域をどうつながっていくかが課題。
・「チームオレンジ」に加入。
・機会がなく、遠方だったが参加した。
・ケアマネさんが頼り。家族ではわからないことが多い。
・徘徊等の危険な状況は行政としてもとても心配。見つかると本当に安心する。家族の声がよく届く。
・本人の希望と安全をどう担保するのか。
・「人とのつながり」「居場所」「話を聞いてもらうこと」がとても大切。
・家族内だけでなく、介護等の外部を頼るよう伝えようと思う。
・ケアラー（ヤング・アダルト）の大変さを感じる。
・ヤングケアラーの虐待発生を家族以外の者が手助けして緩和が必要。
・家族から、今困っていること聞きたがる人がいる。自分の大変さを含め、外部発信することで支援も行える。

令和６年度　ケアラー支援専門員設置事業
【横須賀地域研修会】意見交換の概要　※無断転用禁止
※グループごとに記録いただいた意見交換の内容を掲載しています

これから自分にできること

・8050の前に何かできないか、できるだけ早期に見つけたい。様々な機関へつなげたい。
・アウトリーチをしっかり行う。支援の必要な人には必要な支援を。
・8050をどこにつないでいったらよいか。どう関わっていくか考えていきたい。
・つかず離れず見守っていければ。
・地域ぐるみで支援していけたら。誰がヤングケアラ―なのかわかりづらく、どう介入していくか考えたい。
・民児協に広報する。
・町内会長に伝える。
・偏見・誤解が少しでも減るよう努めていく。
・制度があることを知らない。どこに聞けばいいかわからない。聞くことができないし、やることそのものが頭に浮かばない人が多いので、家族だけでなくみんなに頼ることの重要性を伝え、関係者から情報提供。